

DNAレポート

弊社推奨注入DNA精製方法:

- 1) Super Broth 100 ml で、目的 Plasmid を持った大腸菌を培養する。
- 2) アルカリ SDS 法により DNA を抽出する。
- 3) フェノールクロロホルム抽出を 2 回行う。
- 4) エタノール沈殿する。
- 5) TE 1 ml に溶解する。
- 6) RNase で処理する。
- 7) PEG 沈殿する。
- 8) フェノールクロロホルム抽出を 2 回行う。
- 9) イソプロパノール沈殿する。
- 10) TE 2 ml に溶解する。
- 11) CsCl 法で超遠心分離する。
- 12) TE で 150 μ l にする
- 13) 1-ブタノールで EtBr を除去する。
- 14) TE で 1.5 ml にする
- 15) TE buffer で透析する。
- 16) フェノールクロロホルム抽出を 2 回行う。
- 17) エタノール沈殿する。
- 18) TE 100~200 μ l に溶解する。
- 19) Plasmid DNA 約 10 μ g を制限酵素で切断する。
- 20) フェノールクロロホルム抽出を 2 回行う。
- 21) エタノール沈殿する。
- 22) SeaKem GIG agarose gel (FMC BioProducts) を用い、目的 DNA 断片を Vector 部分と分離する。
- 23) GeneClean II Kit (BIO101) を用い、目的 DNA 断片を精製する。(glass milk の混入を少なく)
- 24) TE 20 μ l に溶解する。
- 25) 吸光度 OD 260 nm、電気泳動で DNA 濃度を確認する。

26) 50 μ g/ml であることを確認し、

全量で 10 μ l 以上をドライアイスで保冷し、発送して下さい。

・Tgの取得率はDNAの精製度合いに依存いたしますので、弊社プロトコルに準じた純度のDNAを精製して下さい。

実験番号 PXB-MI-001
株式会社フェニックスバイオ
宇都宮事業所
高橋 利一 様

効率的な実験計画立案のため可能な限り下記の情報をご提示下さい

DNA 情報

サンプル名 : _____
鎖長 : _____ b
直鎖/環状 : _____
ベクター配列の有無 : _____
DNA濃度 : _____ ng/ μ l
DNA溶解液 : _____
電気泳動写真 :

写真貼付

DNAの個体発生への影響が考えられる場合の対処方法